

東日本巨大地震が留学生に与えた影響
—地震1年後のインタビューを通して—

王 敏東・仙波 光明

Impact of 311 Japan Earthquake on Overseas Students from
Taiwan: Interview conducted on one year after

Ming-tung Wang ; Mitsuaki SENBA

Abstract

This study interview overseas students from Taiwan on the impact induced by Japan earthquake occurred on March 11, 2011. The interviews on eight overseas students were conducted during February to May, 2012, with seven being interviewed once before and one student was for the first time being interviewed. Most overseas students loved Japan and disregarded the impact brought by the earthquake. These interviewees kept contact with Japan by continuous overseas study or by other routes. The communications with these students were not as fluently as last time, indicating the importance of Japan or overseas study in Japan declined.

要旨

本研究は2011年3月11日に起きた東日本巨大地震の留学生への影響を調査したものである。具体的には2011年2月～6月にインタビューを受けた、日本に留学していた（またはしている、しようとしている）学生7人と、今回はじめてインタビューを受けた学生1人を対象に、地震約1年後の2012年2月～5月に改めてインタビュー結果をまとめた。多くの留学生たちは、日本に未練があり、地震または地震が自分の留学に与えた影響をさほど重視せずに、留学または留学以外の他の形で日本と接している（またはする予定である）が、今回のインタビューの準備の段階において、留学生

と連絡をとることが前回より難しかったという点¹から、日本（または日本留学）が彼らの中に占める位置が低下したことがうかがえよう。

1. はじめに

東日本大地震は、ちょうど新しい学年を控えた時期に起きたこともあり、数多くの留学生の、人生の重要な出来事とも言える日本留学に大きな影響を与えた。筆者は以前、地震直後の2011年3月～6月に日本に留学していた（またはしている、しようとしている）学生15人（出発地が台湾の13人、韓国と中国大陸人各々1人）に対するインタビューをまとめて報告しており、基本的に日本に留学までした（またはしている、する）学生の多くはもともと日本のことがかなり好きで、心のどこかに日本に対する信頼を蓄えていることを明らかにした。

本研究はその続きとして、地震が起きた約1年後に、ほぼ同じメンバー²を対象に改めてインタビューをしたものである。

2. インタビュー調査

前節（1. はじめに）に触れたように、今回のインタビューは主に前回（2011年）インタビューを受けたメンバーの約半分の人を対象とした2回目の調査である。手順としては、留学生にまず前回まとめた全体の報告（論文）³を見

1 興味がないとはっきり断ったのは1人、連絡がとれないのは3人で、返事をもらっていないのは1人、引き受けたものの、インタビューをする時間についての連絡を何度かしても返事がなかった人が2人である。引き受けてくれた者のうち3人は、筆者からの度重なる積極的な依頼の末やっとインタビューができたという具合だった。一方、快諾した学生も4人おり、前回のインタビューのことを知らず、今回自動的にインタビューを受けた人も1人あった。詳細は文末付録を参照。

2 2011年前回インタビューを受けた台湾人（出発地が台湾の）13人に、中国大陸より台湾に嫁に来た人とマレーシアの華僑がそれぞれ1人含まれている。また、前回の報告では、直接インタビューしたわけでないが、メール等の形で、地震当時日本にいた引率の先生、そして台湾の日本語学科を卒業後ワーキング・ホリデーで日本に行っている人、あわせて4人（いずれも台湾人）の意見も得たが、今回は留学生たちの意見のみに絞って報告したい。

3 王敏東・林益泓・仙波光明（2011）「東日本巨大地震が留学生に与えた影響—インタビューを通して—」『言語文化研究 徳島大学総合科学部』第9巻、pp119-145

せた後⁴、2012年2月に2回目のインタビューを受けるかどうかの問い合わせをした。2回目のインタビューを引き受ける留学生にインタビューの予定の内容⁵を渡し、最後に、正式な訪問の時間、方法などについて約束をした。

以下、まず今回（2012年）インタビューを受けた8名の留学生について簡単に紹介する。次は訪問調査の内容（半構造化インタビュー面接の設問）を紹介した後、訪問を受けた者の答えをまとめる。また、前回の訪問の状況を含めて筆者が留学生を観察した感想も添える。

2・1. インタビューを受けた学生の資料

8人の学生を対象としたインタビューの実施期間は2012年2月29日～5月3日である。インタビューを受けた学生は、全員台湾から日本への留学生であり、全員女性である。年齢は三十代前半の1人を除くと全員が二十代である。また、所属については学部生が6人、大学院生が2人となっている。地震当時の場所は母国の他、留学先の山形、関東、関西であるのに対して、2012年春インタビューを受けた時に日本で勉強していた者は1人もいない⁶。

2・2. インタビューの内容

前回と同じく、質問は“描写的”または“解釈的”なもの⁷とする。具体的には「A：2011年3月11日に起きた地震当時の“あなた”の様子を簡単に述べなさい。」「B：この1年の“あなた”の様子を簡単に述べなさい。」「C：東日本大地震はこの1年のあなたの生活にどう位置づけられているか。」「D：東日本大地震は2011年のあなたの留学にどう影響を与えたか。（当時の決定をどう思

4 論文を読んでから、自動的に「すぐ読んだ。ありがとう。」「論文を読んでいると深く考えさせられた。とくに皆さんの日本に対して何とも言えない特別な感情に改めて感心した。また、インタビューを受けた当時の自分の気持ちを論文に残されていることにより、自分が生きている存在感が深まっている気がする。」「この論文を読むことができて嬉しい。自分のインタビュー内容を見て、日本にいた時の様々なことが偲ばれるようになっていく。」「この論文を読む機会を与えてくれてありがとう。役に立って嬉しい。」などの感想を教えた留学生が何人かいた。また、地震当時、台湾の大学の日本語学科を卒業した後ワーキング・ホリデーで日本に行っていた2人（そのうちの1人は前回の論文にも触れた）が論文を読んで、涙ながらにワーキング・ホリデーの期間中に最も印象に残ったことはこの地震のことだと語った。

5 詳細は後述（2・1. インタビューの内容）する。

6 この8人に関する資料は付録の通りである。

7 この2種類の設問は現象の状態と意義が探究でき、質的な研究に向いているためである（陳（2002：28））。

うか。それはどうしてか。自分の留学に影響を与えたこの地震またはその地震による留学への何らかの調整を、今はどう見ているか。もし遺憾があれば、どうするつもりか。)、 「E: 自分の留学に影響を与えたこの地震またはその地震による留学への何らかの調整を、周りの親戚や友達はどう見ているか。彼らの意見はあなたにどう影響したか。)、 「F: 2011年地震当時あなたと同じように“留学を継続するか中止するか”と悩んだあげく、あなたと違う決定をした友達がいるか。彼らはその後どうなっているか。(あなたは彼らを羨ましく思うか。あるいは彼らはあなたを羨ましく思っているか。)、 「G: もし当時実際と違った決定をしたらどうなったかと思うか。)、 「H: 今は日本についてどう思っているか。(この1年の日本の地震に関連すること(津波や原子力発電所)への対処をどう思うか。あなた自身の当時の考え方とどう違うか。)、 「I: この1年に日本へ行ったか。行ったとしたらどんな様子だったか。(Q1': (留学を継続して日本にいた人には) この1年に日本の留学先以外のどこかへ行ったことがあるか。福島などの被災地へ行っていたか。意識的に被災地を避けたか、それとも逆にあえて被災地に行ったのか。それはどうしてか。この1年に被災地に行ったとしたら、そこを見てどう思ったか。)、 「J: 近々日本に行く予定があるか。(もしあるとしたら、いつ何のために行くか。心配はないか。)、 「K: 日本はこれからどうなると思うか。」である。

また、インタビューはすべて留学生の母語である中国語で行なった。インタビューの内容は基本的に対象者の理解を得て録音し⁸、筆者が改めて文字化したものについて2012年3月～2012年6月の間に対象者の確認をとった。以下、質問A～Kの順で具体的な内容について述べていく。

QA: 2011年3月11日に起きた地震当時の“あなた”の様子を簡単に述べなさい。

今回のインタビューの起点として地震当時の回想がふさわしいと考えられるので、当時の留学生たちの様子をまず述べさせる⁹。

①地震当時は留学期間中の一時帰国にあたり、台湾の友達のうちにいた。たまたま日本のNHKを見たら、東北大震災のニュースが入った。あまりの驚きでうそだろうと思い、半信半疑で、台湾とのニュースを交互に見ていた。津波

8 ⑧番の留学生のみは時間の都合によりペーパーで質問に答えた。

9 与えられた①②などの番号は基本的に2011年に行なった前回のインタビューと同じである。⑩は前回インタビューを受けずに、今回はじめてインタビューを受けた者である。また、番号は前回インタビューを受けた時間の順に配列しており、とくに意味はない。

に飲み込まれた仙台空港¹⁰など、痛々しい映像を目にして、その時受けたショックは今思い出しても変わりはない。

- ②地震が起きた時には、留学先の寮で昼寝をしていた。停電、そして水道もガスも止まった¹¹と気付いたことで事情が深刻だと分かった。でも、町では警察が交通秩序を維持していたし、日本人が慌てることはなかった。
- ③電子辞書を買うため池袋の店に入っていた。当日午後2回目の地震が大きかったので皆屋外に出た。夜ニュースを見たり、翌日家族が心配して帰ってくるように促す電話を掛けてきたりした上、地震3、4日後には交流校が出した留学生全員を帰すという結論を聞かされ、徐々にこの大変さが分かっていた。
- ④友達と池袋のビッグカメラで電子辞書を選んでいた。地震だとは気付いたが、地震のないマレーシアで生まれ育った私にはどのくらい深刻なものであるかは分からなかった。同行の台湾人の友達や店外にいる日本人の慌てた様子を見て、これは相当なものだろうということをごだんだん意識してきた。
- ⑤東京の繁華街の店にいた。最初は店内の棚が揺れていると錯覚していたが、地震だと気が付いたので、友達と店を出た。夜、電車が止まり、帰れなくなってからはじめて事態の厳しさを実感した。
- ⑥一緒に短期留学に行った6人の友達と東京の店にいた。最初は地震だと分かっていても、台湾で経験した地震の感覚で、すぐおさまらるだろうと思い、とくに気にはしていなかった。何回もほんとうに大きな地震が起きて、日本人店員も緊張するようになってから、はじめて大変だと実感した。店を出て、街にいる日本人たちの様子を見て、とうとうどの店も入れてくれないようになってから、ただの地震でないことが分かり、そして数日後、始めたばかりの留学を止めさせられるに至った。
- ⑧地震当時は休みを利用して一時帰国して、台湾にいた。インターネットを通して留学先である京都の友達に当地の様子をうかがった。揺れはあったが、大した事故はなかったと聞いてとりあえず一安心した。
- ⑩東京で友達と買物をしていた。地震だと気付いた時にはとくに気にしていなかった。地震が大きくなってからはじめて、友達と外に出た。でも、せっかく東京に来たから、やはりショッピングしたいと思った。その後、大きな災難だと分かり、とうとう同期の留学生とやむを得ず帰国させられるようにな

10 本人が留学する際に上陸した空港である。

11 そのせいでよく行っていたラーメン屋もコンビニエンスストアも営業を中止した。

った。

QB：この1年の“あなた”の様子を簡単に述べなさい。

2011年3月11日の発生以来、東日本巨大地震は日本だけでなく、台湾でも新聞、テレビなどで多く取りあげられている¹²。また、地震1年後の2012年3月には日台ともこの1年を振り返る特別番組などが放送されている¹³。それと対照させる意味もあり、この1年の留学生たちの様子を把握するための設問である。

①地震の約2週間後、台湾の大学から留学の中止または継続に関する問い合わせ（どちらにするか正式に決定してほしいという書類）が来た。私はどうしても留学を満期終了したかったので、家族の理解を得て4月に日本に帰ることにした。が、日本の大学が開講する時間を4月末・5月初にまで伸ばしてくれていたため、5月に念願の留学を再開した。6月に、友達が車で被災が比較

12

日本ではたとえば『読売新聞』で「東日本巨大地震」「東日本大震災」、台湾ではたとえば『自由時報』で「(日本) 311 (大地震)」をキーワードとして検索すると、2011年3月～2012年3月における各月の記事数はそれぞれ下表のようになっていた。

		2011年										2012年		
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
読売新聞	東日本巨大地震	5350	336	4	6	1	0	0	0	1	1	5699	0	0
	東日本大震災	34	7880	5689	4920	3451	3430	3255	2895	2624	2656	2645	2347	3479
自由時報		76	95	65	44	29	31	24	22	24	22	15	30	83

*数字は記事の数を表す。

13 たとえば2012年3月11日の『毎日新聞』では、国際、体育、医療&健康などごく限られた紙面に東日本巨大地震以外の記事が散見されるぐらいで、地震に関する記事が紙面のほとんどを占めている。また、同新聞に掲載されている番組情報によると、各テレビ局も当日大半の時間を当該地震に関する内容の番組の放送に使っている。

的ひどい仙台に連れて行ってくれた。きつくて臭い匂いがしたばかりでなく、津波の跡、まだまだきれいに整理されていない車などの残骸が散見された¹⁴。8月の末の、これ以上日本にいられないという留学の期限の最後の日に帰国した。以来、こちらの大学院で頑張っている。

- ②割と早い時期に台湾に戻る事となった。主要な原因は家族の催促であった。私は台湾に帰ることで早く卒業できるのであれば¹⁵、それも悪くないと思った。台湾に戻ったらすぐこちらの生活のテンポを取り戻した。夏に大学院の単位を全部取得し、9月より修士論文一筋に頑張ってきた¹⁶。
- ③台湾の大学の生活が忙しいから、留学や地震のことを忘れかけていた。
- ④最初は地震のため台湾へ帰らなければならなくなったのをとても受け入れられなかった。というのは、小さい頃からほとんど真面目に勉強したことがなかった私が、今度の留学で、大学に入ってから態度を一新したということのを両親に証明したいと思ったからである。しかし、いくら悔やんでも仕方がないので、いずれまた日本に行く機会があるだろうと自分に言い聞かせている。また、台湾に帰ったら、待っていたのは中間試験だった。やむを得ず留学を止めた悔しい気持ちはそのうち薄れてきた。
- ⑤地震で留学を続けることができなくなり、約1週間後、同期同じ学校の友達と一緒に国へ帰った。帰国後は、ほとんどずっと地震・放射能などのニュースを主体的に見ている。
- ⑥帰国してから、最初の1、2ヶ月は留学を予定通りに継続できないことを多少残念に思っていたが、こちらの大学の生活もいろいろ忙しいから、いつの間にか留学やら地震やらのことを忘れかけていた。正直に言うと、今回先生から2回目のインタビューの問い合わせが来た時、一瞬随分前のことだと思った。
- ⑦今は地震の前とほとんど変わりはない。地震のため、何を決めるにしてもいろいろ厳密に、しかも慎重に考えなければならないということを実感し、自分の意思で物事を考えられるようになった。
- ⑧今は何ともないように見えるかもしれないが、実は国へ帰ってきて約半年ぐ

14 7月にもう1回行った。状況は、少しはよくなっていたが、被災地だという印象はやはり強かった。

15 日本にいたら、あちこちを遊び回りたくなるから、卒業する時間が延びそうであった。

16 学科の規定に間に合うように論文を出したので、うまく行けば夏の口頭試問をパスして卒業できると考えている。

らの間、留学を途中止めたことを少し悲しく思う気持ちが続いていた。

QC：東日本大地震はこの1年のあなたの生活にどう位置づけられているか。

地震発生以来の1年間、地震が留学生の生活にどのような位置を占めているか、または時間がたつのにしたがいがい変化したかどうか、などを学生自分に評価してもらう。

- ①地震のせいで、思う存分日本のあちこちで遊ぶことができなくなったと口にした留学生の友達もいるが、私が2011年5月に山形にある留学先に戻ったら、基本的に大学や日常生活は通常通りに動いていた¹⁷。福島など東北出身の何人かの友達から実家のひどい状況を聞かされていた。本当に見聞きに耐えないほど悲惨そのものである¹⁸。実は帰国してからも、日本の友達と連絡をとりあっており、地震に関するニュースを絶えず目に留めている。たぶん、この地震はどこかで私の一部になっているのではないかと思う。
- ②東北の状況に注意を向けることがすでに生活の一部になっている。去年の9月前後までには積極的に日本のニュースなどを見ていたが、9月以降は修士論文に専念しており、さほどテレビを見たりする暇はなかったので、積極的に地震や原子力発電所のことに目を向けることが少なくなった。しかし、東北に比較的大きな地震があったという情報が入る度に、日本にいる友達に電話で様子を聞いたりしている。
- ③今回の地震は私に、親の子を思う気持ちを分からせてくれた。
- ④積極的に新聞を読んだりする方ではないので、積極的に東日本大地震に関する情報を取得はしていないが、たまたま何らかの機会でそこら辺のことが耳に入ったら聞く、という態度である。
- ⑤地震によってひき起こされた問題に関する情報に対する関心は、今も変わっていない。Yahoo! Japanのdaily newsを今もチェックしているほどである。また、誕生日がちょうど3月中旬に当たる友達がいるので、これからも毎年この頃になる度、地震のことを思い出すだろう。
- ⑥以前の生活のペースを取り戻してから、もうそんなに日本の地震に気をしなくなった。こちらのニュースで地震の話が流れたら見るが、積極的にチェック

17 しかし、危惧の表れだろうか、たとえば被災地の野菜などはスーパーではほとんど人気はない。私は別に安ければ買うが、これは被災地へのささやかな支えにもなるからである。

18 親友の死亡をはじめとして、うちや農産物が一瞬に全部なくなったりしたほどであった。

クしたりはしない。

- ⑧前述したように地震当時日本にいなかったのも、地震そのものより、地震でひき起こされたいろいろな問題の方こそ、記憶に新しい。たとえば、こちらの大学への留学を継続するかまたは中止するかということについて決断を迫られた時の迷いは今ははっきりと覚えている。
- ⑩2011年の留学は地震のため予定の半年よりあまりにも短い1週間で終わってしまった。留学が大学に入った時からの夢なので、できれば6月にこちらの大学を卒業して、年末にでも日本のどこかの大都市へまた行きたい。この1年は再度の留学の準備をしている。

QD：東日本大地震は2011年のあなたの留学にどう影響を与えたか。（当時の決定をどう思うか。それはどうしてか。自分の留学に影響を与えたこの地震またはその地震による留学への何らかの調整を、今はどう見ているか。もし遺憾があれば、どうするつもりか。）

地震発生後、多くの留学生に自分の日本留学に計画通りに続けるか、止めるかという迷いがあった¹⁹。放射能やその他のことでいろいろ悩んだあげく、最後の決定を振り返ってみると、どうだったかについての情報である。

- ①どんなことがあっても念願の日本留学を最後まで成し遂げる決心を証明する結果になったし、幸い無事に留学を遂行したと思う。
- ②留学を止めて、とくに残念だったのは留学先の日本文化の授業に最後まで出られなかったことである。担当の先生に何とか別の形で私が出られるようにとお願いしたが、行政などの面でいろいろ難しいようで、だめだった。
- ③楽しみにしていた留学²⁰を止めたのはやや残念であるが、国へ帰ってきてからほんの数週間で地震のことを忘れ、ほとんど気に掛けなくなった。当時の決定について後悔はしないが、微かな遺憾はあった²¹。その遺憾は改めての赴日で代償する²²。
- ④留学生全員帰るようにと決めたのは大学だった。私は最初は、どうして、と

19 王・林・仙波（2011）。

20 先輩から留学の面白いことをたくさん聞いていたので、留学は楽しいものであると想像していた。

21 安全のために帰国するとの決定は正解だと思うが、思う存分留学生生活がエンジョイできなかったのは遺憾の種である。

22 後述するが、2011年8月に関西へ遊びに行った。また、2012年8月にワーキング・ホリデーの形で日本へ行く予定である。

不満に思っていたが、現実を目を向けたら、そのうち納得したというか、少なくともとくに何も考えないようにはなっている。

- ⑤地震のため、留学は始まったばかりの段階で終わってしまった²³。それは当然残念に思っている。が、たとえ当時自分で決められた²⁴としても、しばらく日本を離れて様子を見て、また行くことにしたと思う²⁵。それで、実は去年の夏、2回も日本に行った。将来東京のような大都市へ留学に行くことも考えている。
- ⑥後悔はしていない。今は日本語や、興味を感じる専門分野の知識を充実させている。いずれまた日本に留学に行くので、何も去年中止せざるを得なかった留学だけにこだわる必要はないと思う。
- ⑧いろいろ迷ったあげく、留学を続けたことを幸いだと思っている。そのおかげで、たくさんの友達が作られ、文化交流もできたからである。
- ⑩2011年の留学を予定通りに最後までできなかったことを非常に残念に思っている。が、後悔や遺憾はない。こちらで過ごす時間も無駄でないから、日本の状況がこれ以上悪化することがなければ、積極的にまた留学に行くつもりである。

QE：自分の留学に影響を与えたこの地震またはその地震による留学への何らかの調整を、周りの親戚や友達はどう見ているか。彼らの意見はあなたにどう影響したか。

学生の親戚や友達の意見が学生本人にどう影響に及ぼすかを明らかにするための質問である。

- ①うちは金銭などの面でそんなに裕福でないから、せつかく留学のチャンスに恵まれた以上、どうしても途中で止めたくなかった。家族も私が留学期間を満期終了したことを認めてくれている。私は家族にとっても感謝している²⁶。
- ②親戚や友達は安全上の理由で、帰ってよかったと思っている。私自身としては、留学を止めたことについて、先ほど述べたように、早く卒業したいとい

23 留学先の大学の正式な授業に全く出席できなかった。

24 当時は同期の同じ学校の友達全員が強制的に帰国させられた。

25 つまり、地震後、ずっと日本にいても、安心して留學生活を送れなかったと思う。

26 ちなみに、家族への感謝の気持ちがあまりにも強いせいで、一日も早く就職して、金儲けの形で恩返したいほどである。でも、両親が一番期待しているのはたぶん私の修士号だろう。

う理由だけが大きいので、他の一般の人が心配している安全等のことについては保留する。

- ③皆はせっかくの留学があんな形で終わってしまったのを運が悪いと言っている。
- ④ちょっと残念ではあるが安全・健康が何よりも大事だと親（とくに父親）は言っている。私は親に心配をさせたくないから、親の意見にしたがった。
- ⑤家族がちょっと心配しすぎたかもしれないが、帰ってきて私が実際に目の届く範囲内にいるのを安心しているようだ。
- ⑥地震当時から家族はすごく私のことを心配してくれていたから、とにかく帰ってきてよかったと言った。私はもちろん家族の意見を第一に思っている²⁷。
- ⑧留学を継続するかまたは中止するかということを決めさせられた時、親戚の多くは危ないから留学を止めろと言っていた。それらの意見の影響で、私自身まで戸惑っていた。しかし、やはり悔しくてどうしても留学期間の最後まで日本にいたいと思った。両親は心配しながらも、反対しなかった。私はそのように私の意志を尊重してくれた親にとっても感謝している。
- ⑩最初はもちろん非常に真剣に心配してくれていた。いつの間にか、“(留学が中止になって) ついていないね” など軽くからかえるようになった。きっと私が無事に帰ってきたことで安心した印だと思う。

QF：2011年地震当時あなたと同じように“留学を継続するか中止するか”と悩んだあげく、あなたと違う決定をした友達がいるか。彼らはその後どうなっているか。(あなたは彼らを羨ましく思うか。あるいは彼らはあなたを羨ましく思っているか。)

地震の影響で日本留学を継続するかまたは中止するかとの決断を迫られ、留学生の多くはさんざん悩まされたと思われる²⁸。そのどちらを選んだにしても、自分と違う選択をした友達がいると想定される。このような自分と全く異なった道に歩んだ友達はその後どうなっており、そして自分をどのように見ているか。インタビューを受けた留学生本人だけでなく、正反対の見方もうかがえると考えたため設けた質問である。

27 私としては留学を続けようと思わないことはなかった。ただし、1人だけ日本にいることはあり得ないと思う。だから、一緒に行った友達が皆帰国したら、私も帰るしかなかった。

28 王・林・仙波(2011)。

- ①同期の留学生の半分は私と違う決定をし、留学先を離れた²⁹。そのような学生の中には、私のことを羨ましく思う人がいる。
- ②同じく山形大学の同期の友達が日本にいて、予定通り2011年8月まで留学をしていた。そのように決められた原因の1つには、地震当時彼女たちが一時帰国していて地震の強烈さを実感しなかったことがあるのではないかと思う。フェイスブックで彼女たちが留学生活を楽しんでいたのを知っていた。少し羨ましかった。
- ③詳しいことは知らないが、いるようだ。当時はそのような留学生のことをかなり勇気があると思った。今は、この1年の日本の状況とあわせてみれば、まあまあ納得できないわけでもない³⁰。
- ④そのような人がいるかどうかよく知らないが、いたら羨ましく思うだろう。
- ⑤いるそうだが、親しくないなので、彼らがその後どうなっているかについてはとくに聞いていない。
- ⑥当時一緒に留学に行った違う大学の友達がいた。地震直後、留学を継続するか中止するかという話になった時、“日本は大丈夫だろう”と言い、別の姉妹校に移籍すると決めた人がいた³¹。親しい友達でないので、その後とくに連絡をしていない。フェイスブックで彼らの様子を見ることができるが、地震などのことにはとくに触れられていないようだ。
- ⑧山形に留学していた何人かのクラスメートは再入国の手続きをせずに慌てて山形を出てしまったため、帰国したことを残念だと思っても留学に戻れなかったと聞いた。
- ⑩よく知らない。

QG：もし当時実際と違った決定をしたらどうなったかと思うか。

地震から1年が経過し、復旧に力を入れている日本は、留学先としての環境が悪化することはなさそうなので、もし当時違った決定をしたらどうなったかを学生に考えさせてみる。

- ①もうし当時国へ帰ったら、後悔で憂うつになるだろう。

29 同じ出身大学の学生の半分は、家族の意思にしたがうなどの理由で帰国、同じ留学先の他国の留学生の半分は帰国か日本の南にある別の大学に留学先を変えさせられた。

30 しかし、自分（とくに1人で）はやはりそのようなことはとてもできない。誰か気持ちの通じ合う友達と一緒にないと、日本にいられないような気がする。

31 それに対して、自分と同じ大学の友達は全員帰国することになった。

- ②考えたことはないが、もし当時実際と違った決定をしたら楽しく留学生活を送っていただろうと思う。
- ③期待していた楽しい留学生活ができる自信がなかったので、帰ってくる以外の決定を出すことはなかっただろう。
- ④本当は当時自分の意思で決められたら日本にいるつもりだった。
- ⑤留学を止めて帰ってきてても悪くはなかった。こちらの授業や試験のことでいろいろ忙しくなるうちに、留学への特別な感情が薄くなるのは否めない。
- ⑥帰ってきたこの1年も十分充実していたから、今と違った決定をした方がよかったとは限らないと思う。
- ⑧自分が留学をあきらめた反面、他の人が留学を続けたのを知っていたら後悔するに決まっている。というのは留学を続けようと思う気持ちがあまりにも強烈だったからである。
- ⑩とくに考えたことはないが、当時の決定は悪くはないと思う。

QH: 今は日本についてどう思っているか。(この1年の日本の地震に関連すること(津波や原子力発電所)への対処をどう思うか。あなた自身の当時の考え方とどう違うか。)

今回の地震、そして地震によってもたらされた多くの問題、またはそれに対する対処方法や解決策などを含めた日本全体に対する、留学生の見方はどうなっているか(たとえば地震前と比べて変化しているか)を探してみる。

- ①先ほど述べたように、実際に被災地の様子を自分の目で確認し、回復のスピードは理想的とは言えないのを認める。また、地元山形も帰国時に経由した東京も治安が前ほどよくはない³²ような気がした。だが、制度、福祉などいろいろな面で改善は少しずつされているのも否めない。だから、程度の差はあるものの、私は基本的には1年前と同じで、やはり日本はいろいろな問題を必ず解決できると信じている。
- ②もともと日本は早いうちに回復するだろうと予想していた。この1年の日本の回復ぶりを見るに、死体の処置、道路や給電の修復など、むしろ私の想像より早かった。
- ③福島の原子力発電所にお手上げでどうすることもできずにいる日本に対して、

32 たとえば地震の前は夜遅く外に出てもあまり人気がなく安全で平気だったが、地震後は夜中に外出したらうろろしている人を見掛けるし、凄まじい号泣の声などを時々耳にすることがあってちょっとぞっとした。

前より評価を下げている³³。

- ④日本にいた時、地震で壊れた道路が早いうちに修復されたのを見た。さすがに日本人だと印象的だった。しかし、原子力発電所や放射能になると、話が別になる。それは日本にだけでなく、世界のどこの国も直ちに解決できそうにない難問だからと思う。
- ⑤インターネットを通していろいろ情報を獲得した。たとえば羽田空港が短い期間で通常通り機能するようになっていたのには驚いた。やはり日本はすごいと思う。しかし、東北の、被害がひどい被災地の復旧は私の去年の予想よりもっと時間がかかるかもしれない。
- ⑥実はそこら辺のニュース、情報をフォローしていないから、日本の地震に関連すること（津波や原子力発電所）への対処をよく知らない。だから、当時の考え方とあまり変わっていない。
- ⑧日本政府は国民がパニックに陥らないように、地震に関するいろいろな情報を即時には公開しないようだ。国民はほんとうのことを知りたいと思うから、日本のそのようなやり方は決して正しいとは思わない。この点に関しては当時の考えと変わらない。
- ⑩前も感じたことであるが、復旧は着々と進むだろうと思う。

QI：この1年に日本へ行ったか。行ったとしたらどんな様子だったか。

(QI'：（留学を継続して日本にいた人には）この1年に日本の留学先以外のどこかへ行ったことがあるか。福島などの被災地へ行っていたか。意識的に被災地を避けたか、それとも逆にあえて被災地に行ったのか。それはどうしてか。この1年に被災地に行ったとしたら、そこを見てどう思ったか。）

地震後の1年に、日本のどこかへ足を運び、自分の目で何かを確かめてみたかを教えてもらう。

- ①前述したように、2011年6月と7月に1回ずつ仙台に行っていた。留学先の山形に近い大都市という理由で、帰国前の買い物のため、友達に連れて行ってもらっていた。当時の仙台はもちろん私が上陸した時の2011年秋とはとても比べられないほどひどかった。
- ②日本を出た時、管理人が私の荷物を8月までに保管してくれると言っていた。それに合わせて、8月に一度山形に行った。また、地震のせいで遂げられな

33 よくなってほしい（中国語の「恨鐵不成鋼」）という感情によるものでなく、客観的に評価している。

かった、2011年に家族と北海道へ行く計画を実行するため仙台を經由して北海道にも行った。乗り換えのため、仙台駅に4、5時間ぐらい滞在した。駅の周りにはとくに地震の跡を感じなかった。ただし、北海道では福島産の桃が安くなっているのに気が付いた。

- ③ 去年の夏休みを利用して友達と5日間の関西旅行をした。関西では地震の影響を受けた様子は見当たらなかった。
- ④ 経済的な面で許されないから、この1年の間には日本へ行ってない。
- ⑤ 7月中旬からの約3週間は学科が携わる鳥取での研修活動に参加していた。台湾に戻ってきてから間もなく、またクラスメートと関西に6日間の卒業旅行に行った。鳥取で知り合った日本人友達に地震の時に日本で経験した珍しい体験を話したぐらいで、とくに地震の気配は感じられなかった。また、ネオンで飾られた夜の関西の繁華街でも地震を思わせるようなことはなかった。
- ⑥ 去年の夏休みにクラスメートと卒業旅行に関西へ行った。その時の関西は数年前に行った時とあまり変わりはなく、皆通常通り生活しているように見えた。
- ⑧ 名古屋まで行ったが、東北には行ってない。行ってみたいと思わない。とくに行きたい、または行きたくないというような考えすらないのだ。
- ⑩ この1年に行ってない。今度行くなら、関西へ行ってみたい。

QJ：近々日本に行く予定があるか。（もしあるとしたら、いつ何のために行くか。心配はないか。）

前問（QI）の続きとして近々日本に行く予定、そしてそれとかかわる気持ちを捉えたい。

- ① 今は修士論文に専念して、早く就職して今まで私を温かく見守ってくれている家族に恩返ししたい。
- ② 時間など客観的な条件が許すなら沖縄に遊びに行ってみたいと思う。
- ③ 6月に大学を卒業して、しばらく休んだ後、8月に友達とワーキング・ホリデーの形で日本へ行くつもりである³⁴。東北以外のところなら大丈夫だろう³⁵。
- ④ 将来的には自分の力でお金をためたらまた行こうと思っている。

34 連絡や手続きは進行しつつある。

35 意識的に危険だと思う東北を避けている。また、注30のような（誰か自分の気持ちと通じ合う親友と一緒に行動する）気持ちは今も同じである。両親は治安などもっと多くの面で赴日を心配しているようだが、口では本人の意見を尊重すると言っている。

- ⑤ない。
- ⑥近いうちに行く予定はない。行くとしたら、卒業してから1年ぐらいして改めて留学に行こうと思う。もちろん、行く前に日本に東日本巨大地震のような大きい災害がないという条件付きである。
- ⑧そのつもりはない。
- ⑩とくにないが、できれば改めての日本留学を年末までに確実に遂行したい。

QK：日本はこれからどうなると思うか。

地震直後に同じ質問をした。今回は前回の答えとの異同を検討する。

- ①相当時間がかかる³⁶だろうが、そのうち徐々に回復するだろう。
- ②円高の進行、企業の海外移行というような経済的に厳しい状況の中、経済状況が復興のスピードに影響するだろうが、私は日本人の真面目さや今まで輝いた成果への自信の方が大きいと思う。
- ③ある程度時間がかかるかもしれないが、被災地はいずれ回復するだろうと思う。
- ④近年ますます成長している中国に脅かされているうえ、今度の地震もあって、以前のようなレベルにまで回復するまでの速度は非常に緩やかだろう。
- ⑤非常にお金がかかると予想されるので、大変だろうが、いずれ災害から復興すると信じている。
- ⑥そのうちに元の通りに回復するだろうと思う。
- ⑧百パーセント元の通りにはならないが、ゆっくりと回復するだろう。日本人は今回の地震で経験したこと、そしてそれに学んだことを、いつまでも忘れずに覚えているだろう。
- ⑩いずれ元の世界大国のレベルの国に回復すると思う。

3. 前回との比較——結びにかえて

まず、留学生がインタビューを引き受けた態度について述べる。前にも触れた³⁷が、ほとんどの人が最初はインタビューを承諾したが、実際にインタビューを受ける時点までには、臨時の時間変更など、前回よりかなり苦勞させられ

36 1年前に思った時間よりは長い時間だろう。

37 たとえば注1。

た³⁸。もっとも、皆それぞれの状況があり、いろいろ忙しいのだろうが、そのような状況の下、この地震が留学生に与えたインパクトが次第に薄れていったのだと感じられる。

また、筆者が2回ともインタビューを受けた人の様子を観察したことをまとめると、下表の右の欄のようになる。

番号	インタビューを受けた状況		前回との比較
	2011年	2012年	
①	○	○	基本的に2回とも強く日本を支持・応援している姿勢を
②	○	○	家族の強い要請に応じて留学を中止したが、学生自身は日本のことを相変わらず高く評価・信頼している。機会がある度に、(東北を含む)日本のあちこちを訪れている。
③	○	○	地震当時日本にいた経験から、少し不安があつて留学を止めた。が、数ヶ月後関西に遊びに行った。日本の被災地から遠く離れた場所であれば、観光地として数日間滞在するぐらいなら許されるようだ。
④	○	○	非常に悔しい気持ちを抱いて留学を止めたが、その気持ちは、台湾に戻ってからまもなく、試験などの多い忙しい大学生活に飲み込まれてしまった。また、経済的な理由で再度日本に行くことを後回しにしている。
⑤	○	○	とくに感情の起伏を見せていないが、止むを得ずあきらめさせられた留学の代償として、常に東日本巨大地震に関連する情報をチェックしたり、地震後数ヶ月に別の形で2度も日本を訪れたりしているようである。
⑥	○	○	以前日本に行ったこともあるし、地震後数ヶ月たった夏休みにも行った、さらに1年後にも行く計画している。そのためか、とくに(地震が発生した)今回の留学にはこだわっていない。安全を前提にいつでもまた行けばいいという感じだった。
⑧	○	○	日本政府は今回の地震や放射能に関する情報を直ちに誠実に公表していないという不信の念を抱いている。が、予定通り留学期間を満了した。日本がそのうち回復すると思っている。
⑩	X	○	—

参考文献

38 それに対して、インタビューを引き受けて、スムーズに短時間内でインタビューを完成させられたのは4人しかいない。

日本語

王敏東・林益泓・仙波光明（2011）「東日本巨大地震が留学生に与えた影響—インタビューを通して—」『言語文化研究 徳島大学総合科学部』第19巻、pp119-145

陳向明（2002）『社会科学質的研究』五南出版

西條剛央（2007初版（2009初版5刷））『ライブ講義・質的研究とは何か・SCQRMBasic編』新曜社

毎日新聞社（2012年3月11日）『毎日新聞』

読売新聞社（2011年3月11日～）『読売新聞』（ヨミダス歴史館<http://www.yomiuri.co.jp/rekishikan/>）

中国語

『自由時報』

(<http://iservice.libertytimes.com.tw/IService2/search.php>)

王 敏東 台中科学技術大学応用日本語学科教授

仙波光明 徳島大学大学院

ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部教授

付録

番号 ^{*1}	日本に留学する発地	性別	年齢	留学先	留学の身分	専攻 (及び主な日本語歴)	地震当時にいた場所	2012年春現在 在る場所	2012年春現在 在る身分
①	台湾	女性	二十代後半	山形	交換留学生 (大学院生)	日本語	台湾(留学半年後の一時帰国)	台湾	大学院生
②	台湾	女性	三十代前半	山形	交換留学生 (大学院生)	日本語	日本の留学先の山形(留学半年後)	台湾	大学院生
③	台湾	女性	二十代前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の近くの東京(日本に行って三日目)	台湾	大学生
④	台湾	女性	二十代前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の近くの東京(日本に行って三日目)	台湾	大学生
⑤	台湾	女性	二十代前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の近くの東京(日本に行って三日目)	台湾	大学生

*1 注 39 に同じ。

番号	日本に留学する発地	性別	年齢	留学先	留学の身分	専攻 (及び主な日本語歴)	地震当時にいた場所	2012年春現在 在る場所	2012年春現在の身分
⑥	台湾	女性	二十代前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の近くの東京(日本に行って三日目)	台湾	大学生
⑦	台湾	女性	二十代前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の近くの東京(日本に行って三日目)	台湾	大学生 (今回のインタビューを引き受ける返事をもたっていない)
⑧	台湾	女性	二十代前半	京都	交換留学生 (学部生)	日本語	台湾(留学半年後の一時帰国)	台湾	大学生
⑨	台湾	女性	二十代後半	東京	日本語学校の学生(台湾で修士号を取得したが、日本の大学院に進学する予定)	日本語	台湾(日本に行く直前)	日本(東京にある大学院に進学)	大学院生 (引き受けた後何回かインタビューをする時間についての連絡をしたが返事がない)

番号	日本に留学する発地	性別	年齢	留学先	留学の身分	専攻 (及び主な日本語歴)	地震当っていた場所	2012年春現在 在る場所	2012年春現在の身分
⑩	台湾	男性	二十代後半	神戸	大学院生(台湾で修士号を取得したが、日本の大学院に改めて進学)	日本語	台湾(日本に行く直前)	日本(神戸にある大学院に進学)	大学院生(引き受けた後何回かインタビューをする時間について連絡をしたが返事がない)
⑪	台湾	女性	二十代前半	名古屋	日本語学校の学生(もと社会人)	企業管理(台湾の塾で日本語を勉強)	台湾(5月に予定通り出発)	(連絡がとれないため、不明である)	
⑫	台湾	男性	二十代	名古屋	日本語学校	Marine Engineer	台湾(2011年4月)	(連絡がとれないため、不明である)	
⑬	台湾	女性	二十代前半	大阪の予定だった	日本語学校の学生(予定だった(フリーター)	情報工学(台湾の塾で日本語を勉強)	台湾(2011年4月の予定だったが、地震の影響で取り消した)	オーストラリア	ワーキング・ホリデー

番号	日本に留学する 発地	性別	年齢	留学先	留学の身分	専攻 (及び主な日本語歴)	地震当時にいた場所	2012年春現在 いる場所	2012年春現在 の身分
⑭	中国大陸	女性	二十代 前半	神戸	大学院生	英語(日本の日本語教育専門の大学院で1年間 研究生)	日本の留学先の 神戸	日本(神戸 にある大学 院に進学)	大学院生
⑮	韓国	男性	二十代 前半	西宮	交換留学生 (学部生)	ホテル管理	韓国	韓国(短期 留学期満帰 国)	(連絡がと れないた め、不明で ある) 大学生
⑯	台湾	女性	二十代 前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の 近くの東京(日 本に行って三日 目)	台湾	大学生